

2. 将来人口について

2-1 将来人口について

標茶町の将来人口については、過去の人口の推移をみても減少傾向が続き、今後も減少傾向が予測されており、第3次総合計画が終了する平成22年（2010年）には8,606人程度になることが推計されています。人口の構成は、高齢化と生産年齢人口の減少が同時に進む厳しい状況が予想されます。データでは高齢者人口比率が25%台、生産年齢比率が61%台まで変化することが推計されます。

標茶町としては、まず現在の人口の減少ペースを少しでも遅らせ、安定化をはかることを基本的な目標とします。現在住んでいる人、働いている人をベースとし、この総合計画を推進していくなかで、標茶町のめざすべき環境や生活のありように応じた理想となる適正な人口を見いだしていくことを基本的な考えとします。

この適正な人口の実現のため、積極的なプロジェクトや施策の体系を提案していきますが、しかし、標茶町を取り巻く社会経済情勢の変化はめまぐるしく流動的であり、将来的に不確定な要因が極めて多くなっています。

このような状況のもとで、積極的な施策の推進を堅持することは当然のことではありますが、それぞれの施策が人口の安定化に果たす役割を的確に見通すことは困難です。

そこで第3次総合計画の将来人口の扱いと同様の扱いとし、今回の都市計画マスタープランのなかでは、人口の安定的成長をめざす方向のみを示すこととします。

2-2 市街地人口について

標茶町の将来人口については、今後も減少傾向が予測されるなか、人口の減少ペースを少しでも遅らせ、安定化をはかることを目標としています。

人口減の大きな要素は、集落部の人口流出が大きく、集落部から標茶市街地への流入なども予想されることから、人口減少傾向のなか市街地人口については、大きな流動はないと予想されます。

また、世帯分離などで世帯数は微増傾向にあり、今後もこの傾向が続くと予想されま